

東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト 展示参加メンバー 略歴

鈴木葉音野

1989年東京都生まれ。2012年桑沢デザイン研究所卒業。2015年東京藝術大学大学院修了。紙の「情報をのせるメディア」としての一面と、厚み・色・質・匂いなど物質性の一面とを掛け合わせ、紙を生地のように編み込んで作品をつくるという最小限の要素をもとに、グラフィックとテキスタイルの間の表現の可能性を探る。本展では、清澄白河ゆかりの紙を素材に交えた新作を発表する。

田部井勝彦

1978年群馬県生まれ。2002年に成安造形大学卒業後、プラスチック部品製造会社での金型設計に従事。その後2007年にIAMAS（情報科学芸術大学院大学）修了。田部井勝名義にて、情報技術と立体物によるインスタレーション作品の制作活動をする傍ら、その経験を活かしてデジタルアート作品の修復活動を進めている。本展では、藤木淳による作品の修復保存をテーマに展示を行う。

網守将平

1990年東京都生まれ。音楽家／作曲家。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。学生時代より室内楽からオーケストラまで多数の作品を発表、日本音楽コンクール作曲部門1位ほか受賞多数。近年は映像作品・テレビ番組の音楽制作やインスタレーション作品を手がけ、個人名義としてフルアルバム『SONASILE』（2016年）をリリース、音楽に軸足を置きつつ領域を超えた多角的な活動を行う。本展では「清澄白河の音」に取り組んだ空間を出現させる。

藤田佑樹

1988年愛媛県生まれ。筑波大学大学院博士課程（筑波大学大学院システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 音響システム研究室）に籍を置きつつ、2015年11月より東京藝大芸術情報センターにて教育研究助手を務める。水琴窟（すいきんくつ）による音響のシミュレーションを研究する。

肥後沙結美

1990年埼玉県生まれ。東京藝術大学美術研究科 先端芸術表現専攻卒業。プログラミングや映像を用いた実験作品と、伝統技法やアナログの手法を用いた作品を展開し、人間の本能的な感覚や思考と記憶、社会とのつながりについて考察しつつ制作を続ける。「第8回行動美術TOKYO展」新人賞受賞（東京都美術館）ほか国内外で展示受賞多数。今回は小さなオブジェを展示空間に配置する。

藤木淳

1978年福岡県生まれ。札幌市立大学人間情報デザインコース准教授。研究者として多数の作品を制作し、錯視によるインタラクティブ作品《OLE Coordinate System》（第10回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞）をベースにしたPSP/PS3対応ゲーム「無限回廊」（ソニー・コンピュータエンタテインメント）、人間と物理の新たな関係性を築く研究で高く評価される。独立行政法人科学技術振興機構さきがけ専任研究者、東京藝術大学芸術情報センターJST研究員などを歴任。

古川聖・藤井晴行・濱野峻行・小林祐貴「Architecture dreams Music / 建築が夢見る音楽」

古川聖（1959年東京都生まれ）、藤井晴行（1959年東京都生まれ）、濱野峻行（1985年東京都生まれ）、小林祐貴（1987年愛知県生まれ）によるプロジェクト。建築と音楽の関係を、構造や素材のみならず、構造と認知のレベルにおいてつなぐ方法を模索する。地域に実在する建築空間から音楽表現を同時生成するコンピュータプログラムを開発し、部分的に発展させつつプロトタイプによる演奏を行い、建築空間と音楽をインタラクティブにつなぐ多次元のマッピングを行う。

錯視ブロックワークショップグループ

大谷智子

1976年静岡県生まれ。東京藝術大学芸術情報センター助教。博士（心理学）。マルチモーダル感覚情報処理等の研究を行うとともに、当該分野の理解増進事業に従事。東京大学大学院情報学環特任助教、東北大学電気通信研究所助教などを歴任。錯覚ブロックワークショップグループ代表。

中村美恵子

1960年徳島県生まれ。東京藝術大学芸術情報センター芸術情報研究員。博士（工学）。人間の視覚的認知や感性情報を生かした人間とシステムのインタラクションについて研究。本展では、錯視ブロックワークショップのファシリテーターとして参加。